

綾循MSWだより



超高齢社会を迎え、人生のエンディングに、家族や医療機関等が、本人とどのように寄り添うかが、これまで以上に大きな課題となっています。

近年、「終活」や「エンディングノート」という言葉を耳にするようになりましたが、皆さんはその意味をご存じでしょうか？



●終活とは●

「自らの人生の終わりに向けた活動」

今までは、死んだ後のことを話題にするのは縁起でもないと思われていました。

しかし現在では、死後に向けた事前準備だけでなく、「人生の終焉について考えることによって、今をより良く生きるための活動」というポジティブな意味に広がっています。

●エンディングノートとは●

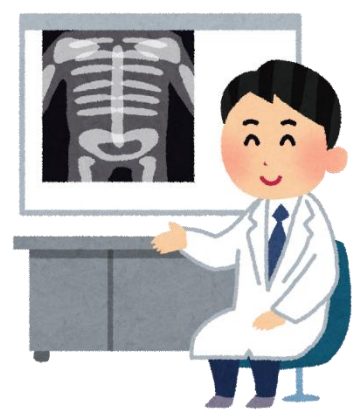
自分に万一のことが起こった時に備え、あらかじめ家族や友人に伝えたいことを書き留めておくノート。

法的効力を持つ遺言書に対して、形式にこだわらない形でメッセージを残せます。



一方、医療機関でも...

患者様の希望する人生のエンディングにそつて、将来の医療及びケアを具体化するような取り組みが始まっています。



●アドバンス・ケアプランニング(ACP)●

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もつて考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みのことです。



愛称は**人生会議**だそうです。



取り組みの第一段階として、今回綾循MSWだよりを作成しました！
今後、ACPIについて詳しく取り上げていきます。

●まとめ●

人生のエンディングを考える時期が早すぎることはありません。何にどのくらい費用がかかるのかが分かるので、今後の家計を把握しやすくなります。

また、身の回りの整理や、万が一の時に延命治療や臓器提供などをどのようにしたいか明確にしておくことは、年齢を問わず役立ちます。



前向きな老後のために人生のエンディングと向き合い、1日1日を大切に過ごしていきましょう。

